

甲斐市立双葉西小学校 自己評価書

令和7年2月3日（月）作成

校長 「 小宮山 昇 」

記述者 教頭 「 武田 真弓 」

学校教育目標 「ともに学び ともに育つ」

【めざす子ども像】

- ・知 ○よく考え判断できる子ども
- ・徳 ○思いやりと感動する心のある子ども
- ・体 ○じょうぶでがんばる子ども

【めざす学校像】

- 豊かで確かな学力をつける「学びがある」学校
- その子のよさを認め、伸ばす「仲間がいる」学校
- 地域と互惠関係にある「地域とともにある」学校
- 子どもの命を守る「安心・安全である」学校

【めざす教師像】

- ともに学び合い、互いに磨き合い、よりよい授業を創る教師
- 目標に向かって創意工夫し、協働する教師
- 子どもの心に寄り添い、支え合う学級づくりをする教師
- 保護者や地域との信頼関係を築く教師
- よさを認める温かさ高い志を求める厳しさを持つ教師

学校経営方針

基本：教師力の向上・信頼によるチーム力の発揮・創意ある協働

- (1) 学校教育目標「ともに学び ともに育つ」を常に意識し、めざす「子ども像」「学校像」「教師像」の実現に向け、積極的に教育実践に取り組む。
- (2) PDCA サイクルを生かし、より質の高い教育活動を構築する。
- (3) 意欲的に研修に励み、専門職としての資質・能力の向上に努める。
- (4) 信頼される学校づくりの実現に努める。

指導重点

指導の重点は、今年度特に力点を置いて取り組むべきことを焦点化するために、昨年度の反省から引き続き取り組まなくてはならない課題と新たに取り組むべき課題について、その解決に向けたできるだけ具体的な取り組みを掲げたものである。新たに取り組むべき課題としては、令和の日本型学校教育の姿として求められている「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させること、「子供主体」の授業への転換をはかることで、子供一人一人の関心・意欲や特性に基づいた学びを実現すること、「主体的・対話的で深い学び」に向けた絶え間ない授業改善を行っていくこと、自己肯定感・自己有用感の向上を図り、一人ひとりの良さや可能性を発揮できる学級・学年集団づくりを行っていくこと等がある。また、本校の特色である「地域とつむぐ授業」を継続・充実させていくことは、引き続きの課題として、重点的に取り組んでいく。

令和6年度 双葉西小学校のグランドデザイン

《学校教育目標》

ともに学び ともに育つ

《めざす学校像》

- 豊かで確かな学力をつける[学びがある]学校
- その子のよさを認め、伸ばす[仲間がいる]学校
- 地域と互恵関係にある[地域とともにある]学校
- 子どもの命を守る[安心・安全である]学校

《めざす教師像》

- ともに学び合い、互いに磨き合い、よりよい授業を創る教師
- 目標に向かって創意工夫し、協働する教師
- 子どもの心に寄り添い、支え合う学級づくりをする教師
- 保護者や地域との信頼関係を築く教師
- よさを認める温かさ高い志を求め厳しさをもつ教師

《めざす子ども像》

よく考え 思いやりと じょうぶで
判断できる子ども（知） 感動する心のある子ども（徳） がんばる子ども（体）

《今年度の指導重点》

1 確かな学力の育成

- 「子供主体の授業」への転換
「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実と課題解決型の探求的な学びの充実を図る。
- 「主体的・対話的で深い学び」の充実
一人1台端末等の ICT 環境を適切に活用し、授業の充実を図る。
- 「地域とつむぐ授業」の充実
保護者・地域との連携により、多様な他者と協働しながらより質の高い学びを生み出す授業づくりを行う。

2 豊かな心の育成

- 人権教育の推進
自他を大切にできる人権感覚を、教育活動全体を通して涵養する。
- 道徳教育の推進
児童の実態や地域の実情を踏まえながら取り組む。あいさつ等進んで行えるよう、日常的に取り組む。
- いじめ・不登校への対応
関係機関と連携した支援体制の充実・職員の研修機会の確保・SOS の出し方教育に取り組む。

3 健やかな体の育成

- 体力の向上
運動強度、体育的活動の内容の工夫等、既存の運動機会を、体力の向上につながるように工夫する。
- 健康教育の充実
自らの健康を適切に管理し、望ましい生活習慣を確立していけるよう、学校教育全体を通して取り組む。

4 地域や世界で活躍する人材の育成

- 伝統や文化等に関する教育の推進
地域との連携などにより、郷土学習を推進する。
- 外国語教育の充実
「聞くこと」「読むこと」「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」の5領域の言語活動や、パフォーマンス評価を計画的に実施する。

5 特別支援教育の推進

- 専門性の向上
特別支援教育に関する理解の促進と専門性の向上のための研修を位置付け、実施する。
- 教育内容の充実
多様性を認め合える集団づくりのための交流及び共同学習において、共に尊重し合いながら協働して生活していく態度を育む。

6 安全・安心な学校づくりの推進

- 安全教育の推進
学校安全計画や危機管理マニュアルの改善を行うとともに、安全教育教材を活用した実践に取り組み、児童が自分で自分の身を守る能力を育む。
- 学校安全の推進
防災行動計画に基づいた防災体制の推進と、保護者・地域との連携強化や連絡体制の整備を進める。

学級経営の充実 【学習活動づくり 人間関係づくり 環境づくり】

コミュニティ・スクール（地域とともにある学校）

『双葉で育ち 双葉を育てる人づくり』

1 全体評価

本校の学校評価は次の全7観点で行っている。

- I 学校教育目標に関して・学校経営について
- II 学校運営について
- III 学習指導について
- IV 生徒指導について
- V 地域との連携について
- VI 学校の特色について
- VII 創甲斐教育について

また、教職員自己評価及び保護者アンケートのそれぞれの設問は、右のような5段階評価で、小学生用アンケートにおいては4段階評価で行っている。教員自己評価において、「E: わからない」については担当外の場合のみつけている。また、年1回の実施のため、昨年度の結果を踏まえながら検討している。

5段階評価〈教職員・保護者〉

- A: とてもそう思う (青)
- B: そう思う (オレンジ)
- C: ややそう思わない (黄)
- D: そう思わない (緑)
- E: わからない (紫)

4段階評価〈小学生〉

- A: とてもそう思う (青)
- B: そう思う (オレンジ)
- C: あまりそう思わない (黄)
- D: そう思わない (緑)

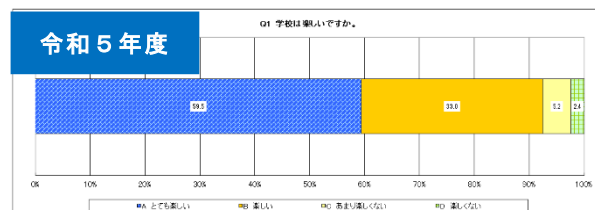
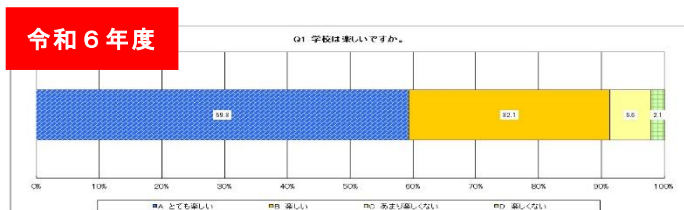
(1) 教員自己評価について

本校では学校長を中心に、学校教育目標の具現化を目指し、全職員で協働し、研鑽を積んできた。また、今年度は、指導重点「子供主体の授業への転換」を受け、『主体的に自分の考えを伝え合い学び合う子どもの育成～個別最適な学びと協働的な学びをつなぐ授業づくりを通して～』と主題を設定し校内研究に取り組んだ。ICTを活用した個別最適な学びや協働的な学びを取り入れた授業を実践し、新しい時代の教育を体感することができた。この研究の成果と課題については、研究紀要にまとめている。

今年度の教職員自己評価も、36の設問のうち34の設問で「A+Bの肯定的評価」が95%以上となっており、教職員が子供たちのために誠実に職務に専念する姿勢が表れている。コロナ禍の終息を受け、今年度は、ほとんどの活動を通常どおりに実施することができた。児童会活動や体育的行事を盛んに行ったことは、心身共に健やかな児童の育成につながっている。一方、行事や様々な活動を行うことは、教員の忙しさにもつながっている。児童とふれあう時間を確保し働き方改革を進めるためにも、業務の見直しと行事や活動の効率的な運営を考えていく必要がある。

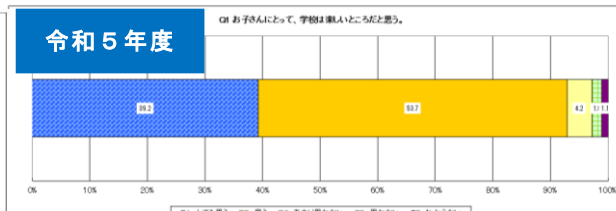
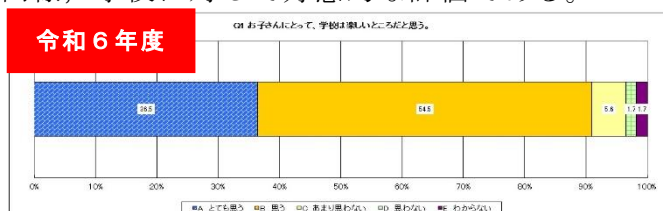
(2) 小学生用アンケートについて

「学校は楽しいですか」の肯定的意見が91%と多くの児童が学校生活に満足している状況である。しかし、否定的意見が昨年と同等程度あり、学校生活にうまく適応できていない児童もいることがわかる。保護者と連携しQ-Uアンケート等を活用しながら個々の児童に合った対応をきめ細かく積み重ねる必要がある。



(3) 保護者アンケートについて

「お子さんにとって学校は楽しいところだと思う」の肯定意見は約91%であった。昨年までと同様、学校に対して好意的な評価である。



2 観点毎の評価結果（達成状況・改善策）

I 学校教育目標・学校経営について

（1）達成状況について

I 学校教育目標・学校経営について	令和6年度				令和5年度			
	A	B	C	D	A	B	C	D
	とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない	とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない
質問内容	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%
I-1 あなたは、学校経営方針や学校教育目標に基づいた教育活動を行っている。	46.2	53.8	0.0	0.0	43.3	56.7	0.0	0.0
I-2 あなたの学校は、学年の教育活動計画が、教育目標や重点目標を踏まえたものになっている。	76.9	23.1	0.0	0.0	73.3	26.7	0.0	0.0
I-3 あなたは、学校の教育活動計画に基づき、実態に即した教育実践を行っている。	56.0	44.0	0.0	0.0	43.3	56.7	0.0	0.0
I-4 あなたは、PDCAサイクルを生かした、教育活動を行っている。	40.0	60.0	0.0	0.0	41.4	58.6	0.0	0.0
I-5 あなたの学校は、校務分掌が適切に割り振られ、機能している。	34.6	65.4	0.0	0.0	36.7	63.3	0.0	0.0

学校教育目標や学校経営については全ての項目で肯定的な回答が 100%であった。昨年度に引き続き良好な結果である。特に I-3 「実態に即した教育実践」は、A 回答が 13% 程向上した。厳しい社会情勢や環境の中、これまで以上に児童ひとり一人に目を向け教育活動を行ってきたこと、子ども主体の授業への転換を意識して実践を行ったことによる成果である。

（2）今後の取組について

- 引き続き教育目標を意識しながら職務にあたっていく。更に教育の質を高めていくために、定期的に教育活動の見直しを行い、さらなる改善点を見いだす。児童や保護者・地域の意見を取り入れ、実態に即した教育活動を継続的に行うことができる体制を整える。また、児童の実態を的確に捉え対応できるように教職員のスキルの向上を図る。校内研究や各種の研修によって個々の力を高めるよう努める。

II 学校運営について

II 学校運営について	令和6年度				令和5年度			
	A	B	C	D	A	B	C	D
	とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない	とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない
質問内容	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%
II-1 あなたは、危機管理マニュアル（防犯、防災、事件、事故等）を理解している。	34.6	65.4	0.0	0.0	43.3	53.3	3.3	0.0
II-2 あなたは、個人情報保護・情報セキュリティの観点から、諸表簿や文書、記憶媒体を適切に管理・活用している。	76.9	23.1	0.0	0.0	73.3	26.7	0.0	0.0
II-3 あなたは、他の教職員と連携して協働体制で、教育活動にあたっている。	69.2	30.8	0.0	0.0	70.0	30.0	0.0	0.0
II-4 あなたは、職務上「報告、連絡、相談、確認」を行っている。	73.1	26.9	0.0	0.0	83.3	16.7	0.0	0.0
II-5 あなたは、校内研究（研修）に主体的に関わっている。	34.6	61.5	0.0	3.8	41.4	55.2	3.4	0.0
II-6 あなたは、校務支援システムを十分活用できている。	33.3	66.7	3.3	0.0	40.0	56.7	3.3	0.0
II-7 あなたは、業務の効率化等の働き方改革を意識して職務にあたっている。	42.3	57.7	0.0	0.0	40.0	60.0	0.0	0.0
II-8 あなたの学校は、特別支援体制が整い、機能的に活用されている。	61.5	34.6	3.8	0.0	46.7	50.0	0.0	3.3

(1) 達成状況について

全体的に良好な結果が示されており、多くの教職員が主体的に学校運営に関わっている学校組織であると言える。特にⅡ－8「特別支援体制」を問う設問のA回答の割合が昨年より15%ほど多くなっている。このことは、個々の児童の特性に応じた教育を行おうとする意識を持って職務にあたり、児童の状況に応じた柔軟で組織的な対応を図ることができたと実感している教職員が多いことの表れではないだろうか。また、Ⅱ－7「働き方改革」については、一昨年、昨年、今年と3年続けてA回答が上昇している。効率的な働き方を意識して業務に当たっていることがうかがえる。

一方、肯定的な回答が100%ではあるが、A回答が減少しているものとしてⅡ－1「危機管理マニュアルの理解」とⅡ－4「報告・連絡・相談」が挙げられる。今年度はこれまでに行わなかった「水害時の避難訓練」「清掃時間中の避難訓練」といった訓練を行ったため、マニュアルの理解に自信を持てない教職員がいたのではではないかと考えられる。また、今年度、職員室では、職員間の距離が近く日常的に情報交換が行なわれており、必要な情報は伝わっていたと感じるが、「報連相」は仕事の基本である。より意識して行っていきたい。

(2) 今後の取組について

- ① 今年度と同様に校内研究に特別支援教育に関する研修を位置づけ、全教職員の資質・能力の向上を図る。また、校内支援委員会を定期的に関き、全教職員で共通理解を持ちながら特別な支援を要する児童の指導にあたっていく。さらに、支援員の配置を工夫して支援の必要な児童が適切に支援を受けられる体制を整える。
- ② 今年度は毎月2回の「定時退勤日」を設け、定時に退勤する取り組みを行ってきた。今後も効率よく仕事を行うことができるよう自己調整を促す。また、日課表の見直しにより、児童と向き合う時間や授業準備・学級事務等に充てる時間の確保を行い、勤務時間を有効活用して時間外在校時間を削減できるよう努める。
- ③ 災害の危機が身近に感じられるようになった中、より実践的な訓練をしていく必要がある。予定調和の訓練ではなく、「実際の場合はどうしたらよいのか」「訓練を実施したら課題が残った」と感じるような訓練を行うことが大切である。今後も「予告なしの訓練」「多様な災害に対応する訓練」を行い、振り返りをきめ細かく行い、教職員対象の研修などを取り入れて実践力を向上させる。
- ④ ICTを活用したペーパーレス化に伴い、情報を待っているだけではなく自分から取りに行くことが必要だと言われる。忙しい中でも必ず校務支援システムや安心メールを見ることが、そこに情報を挙げたからと安心せずに互いに声をかけ合って連絡・確認をすることを徹底する。また、「報告・相談」を確実に行って児童や保護者への的確で素早い対応を行うことができるようにする。そのために、今後も教職員同士が話しやすい職場環境を維持すると共に、話し合える時間のゆとりも確保する必要がある。

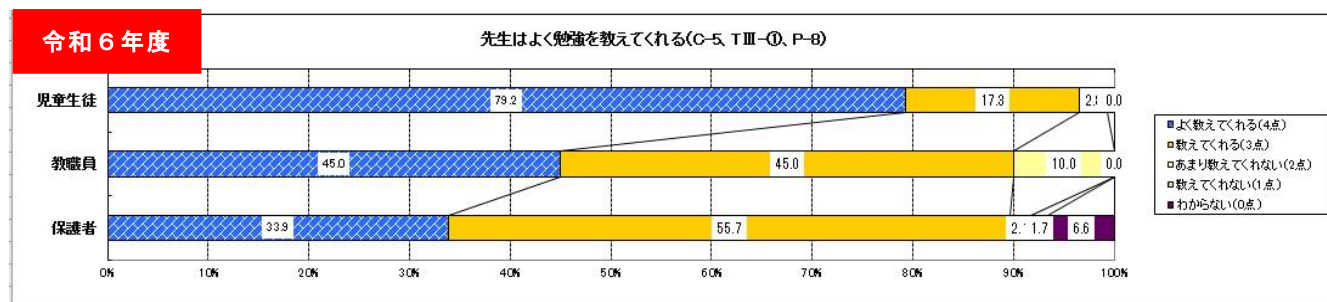
Ⅲ 学習指導について

(1) 達成状況について

Ⅲ 学習指導について	令和6年度				令和5年度			
	A	B	C	D	A	B	C	D
	とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない	とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない
質問内容	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%
Ⅲ-1 あなたは、児童生徒の学びの意欲を喚起する授業を行っている。	45.0	45.0	10.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0
Ⅲ-2 あなたは、個に配慮した基礎、基本の定着を図る授業を行っている。	40.0	55.0	5.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0
Ⅲ-3 あなたは、指導と評価の一体化に努めた授業を行っている。	30.0	70.0	0.0	0.0	45.5	54.5	0.0	0.0
Ⅲ-4 あなたは、ICTを効果的に活用した授業を行っている。	40.0	60.0	0.0	0.0	45.5	40.9	13.6	0.0
Ⅲ-5 あなたは、協働的な学びを取り入れた授業を行っている。	35.0	65.0	0.0	0.0	40.9	59.1	0.0	0.0
Ⅲ-6 あなたは、宿題や家庭学習に対する指導を行っている。	40.0	50.0	5.0	5.0	66.7	33.3	0.0	0.0

今年度は重点目標の「子供主体の授業への転換」を目指した個別最適な学びと協働的な学びを校内研究の内容に取り上げた。個別最適な学びができる授業を行うためにはICTの活用が欠かせない。今年度はICTを「あまり活用していない」と回答した教職員はおらず、Ⅲ-4にあるように100%が「ICTを効果的に活用した」と肯定的に回答している。基礎、基本の定着への指導・家庭学習への指導については、A回答の割合が減少している。「子供主体」の授業へと転換を図る中で、もう少し丁寧に指導をしたかったという教職員の思いが見える。

授業についてのわかりやすさを問う設問では、約97%の児童が肯定的回答をしており、授業に満足している様子が分かる。また、保護者アンケートでも同様に、学習指導についての肯定的な回答は約90%となっている。



(2) 今後の取組について

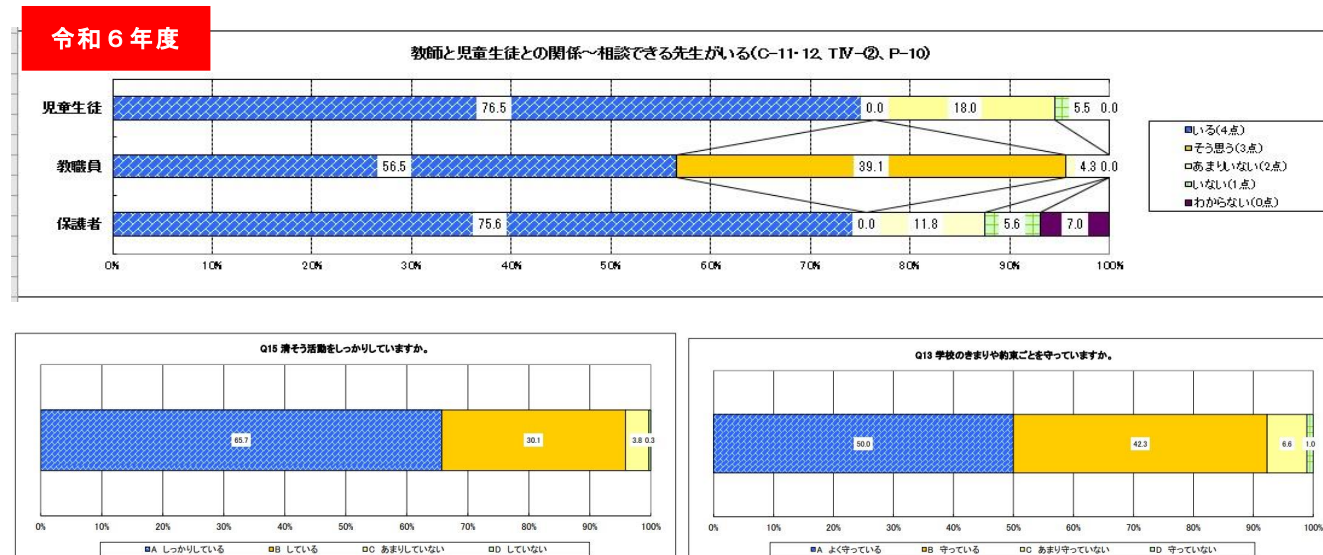
- ① 「子供主体」という視点はこれからの学習指導に欠かせないものである。互いの実践を公開し合ったり、より多くの事例にふれたりすることで実践力をつける。今後も個別最適な学びと協働的な学びについて研究を深め、効果的な指導の方法、評価の在り方を探る。
- ② 学校教育には、友達と協働して学びを深められるというよさがある。そのよさを最大限に活かせる授業を今後も工夫していくのだが、その一方で基礎基本を身につけることも大切にしなければならない。学習計画をよく練り、メリハリをつけることによってその両立を図ることができるようにする。

Ⅳ 生徒指導について

(1) 達成状況について

Ⅳ 生徒指導について	令和6年度				令和5年度			
	A	B	C	D	A	B	C	D
	とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない	とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない
質問内容	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%
Ⅳ-1 あなたは、民主的で規律ある学級・学年・学校集団づくりを行っている。	50.0	50.0	0.0	0.0	56.5	43.5	0.0	0.0
Ⅳ-2 あなたは、児童生徒理解のためにコミュニケーションを図っている。(対：児童生徒)	56.5	39.1	0.0	0.0	56.0	44.0	0.0	0.0
Ⅳ-3 あなたは、児童生徒の規範意識を高く指導に取り組んでいる。	52.2	47.8	0.0	0.0	56.0	44.0	0.0	0.0
Ⅳ-4 あなたは、キャリア教育(キャリア・パスポートの活用・進路指導など)を児童生徒の実態に応じて行っている。	20.0	65.0	15.0	0.0	47.6	47.6	4.8	0.0
Ⅳ-5 あなたは、いじめ、不登校等の早期発見・早期対応ができています。	21.7	78.3	0.0	0.0	41.7	54.2	4.2	0.0
Ⅳ-6 あなたは、児童が意欲的にあいさつをするよう指導を行っている。	47.8	52.2	0.0	0.0	54.2	45.8	0.0	0.0

生徒指導についての達成状況も、6項目中5項目において肯定的評価が95%以上となっており、高い値を示している。本校の教職員が児童に寄り添い、深い児童理解の上で教育活動を行おうとする意欲がよく表れている。それは、児童や保護者の意識にも表れている。学校に「相談できる先生がいる」という設問に対して多くの児童・保護者が肯定的な回答をしている。保護者の肯定的な回答は甲斐市全体より高く、昨年度より増加していることから今年度の成果がうかがえる。また、児童の「学校のきまりや約束を守る」「清掃をしっかりとる」という肯定的な回答がどちらも90%以上と、規律ある学校生活を送ることができている様子が分かる。



一方、Ⅳ-5「いじめ・不登校等の早期発見・早期対応」についての教職員自己評価の肯定的回答のA回答は昨年に続き減少している。社会全体でこれらの問題がより顕在化している現在、教員が自校の状況をより厳しく評価するようになってきていると考えられる。また、不登校の問題は近年複雑化していることから対応が難しく、成果も見えづらい。学校運営における特別支援体制についての項目で肯定的な回答が増加していることから、児童への必要な支援を積極的に行っていることは明らかである。教育に対する考え方や学びの場が多様化している現在ではあるが、学校教育のよさを再確認しながら、粘り強くこれらの問題への対応を継続していく必要がある。

(2) 今後の取組について

- いじめや不登校の問題に対応するため、次のような取組を行っていきたい。

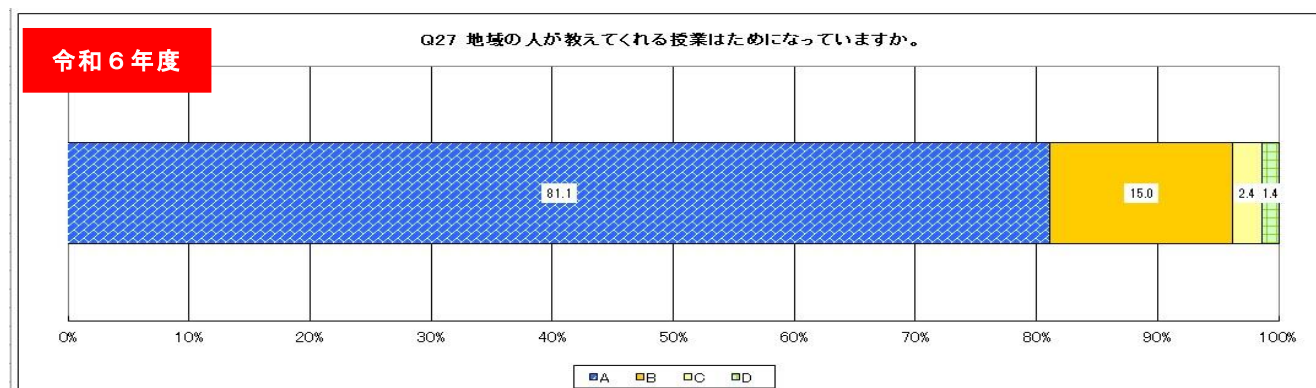
まず、児童同士が良好な関係を結び互いをサポートし合えるよう、日頃からの学級経営の充実を図る。また、児童や保護者・地域住民とのコミュニケーションを深め、児童の変化をいち早く捉えられるようにする。校内委員会や職員会議等を通して全教職員の共通理解を図り、全教職員で統一された意識を持ちながら児童の支援や指導にあたる。さらに、今後も教職員が児童や保護者との関わりを密にして相談しやすい体制を整えることはもちろん、SCや県の教育相談機関などの窓口を積極的に紹介していく。

V 地域との連携について

(1) 達成状況について

V 地域との連携について	令和6年度				令和5年度			
	A	B	C	D	A	B	C	D
質問内容	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%
V-1 あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っている。	45.8	50.0	4.2	0.0	44.8	44.8	10.3	0.0
V-2 あなたの学校は、保護者や地域の願いに応えるため、学校に対する要望等を聞くなどの機会を設け、情報収集を行っている。	69.2	30.8	0.0	0.0	60.0	40.0	0.0	0.0
V-3 あなたの学校は、学校の教育活動について、たよりやホームページを通して保護者や地域に広報している。	73.1	23.1	3.8	0.0	70.0	26.7	3.3	0.0
V-4 あなたは、PTA活動に積極的に参加している。	44.0	48.0	8.0	0.0	37.9	62.1	0.0	0.0
V-5 あなたの学校は、地域・保護者と連携し、児童生徒の安全確保に努めている。	80.8	19.2	0.0	0.0	70.0	30.0	0.0	0.0
V-6 コミュニティスクールは、子供達の豊かな学びを実現する上で有益な仕組みとなっている。	75.0	20.8	4.2	0.0	86.7	13.3	0.0	0.0

地域との連携については、全設問で肯定的評価が90%以上、5つの項目でA回答の数値が昨年度を上回る大変よい結果が示された。今年度も学校運営協議会を中心とする学校応援団の方々に児童の学びを支えていただいた。それにより、児童は安心して学習に取り組んでいる。そして、高い専門性を持っている地域の方の話を聞くことは、教職員の資質・能力の向上にもつながっている。小学生用アンケートの「地域の方が教えてくれる授業はためになっていますか」との設問でも、96%の児童が肯定的な回答をしている。これまでの本校の取組の成果が現れている。



V－5「地域保護者と連携した児童の安全確保」の項目では、A回答が10%上昇した。日常的な地域の方々による児童の見守り活動や、自転車の乗り方・道路の通行の仕方・不審者に関する情報の提供、PTA活動における通学路の安全点検や下校指導などを受け、保護者・地域と学校が一体となって児童の安全を守るアクションを起こすことができたという実感の表れだと言える。保護者の「学校は保護者・地域の声からの耳を傾けている」という肯定的な回答も80%を超え、A回答が昨年度より増えている。またこの値は、甲斐市全体よりも多い。

一方、V－6「コミュニティースクールは有益な仕組みとなっている」についてのA回答が昨年より減少し「ややそう思わない」という回答もある。しかしこれは、教職員と児童の肯定的な回答がどちらも95%を超えていることから、有益性を否定しているという訳ではない。子ども主体の授業への転換・主体的な学習者の育成を考えたとき、CSをどのように活用していけばいいのか、目的に合った活用ができているのかと振り返っている教職員の姿が感じられる。

(2) 今後の取組について

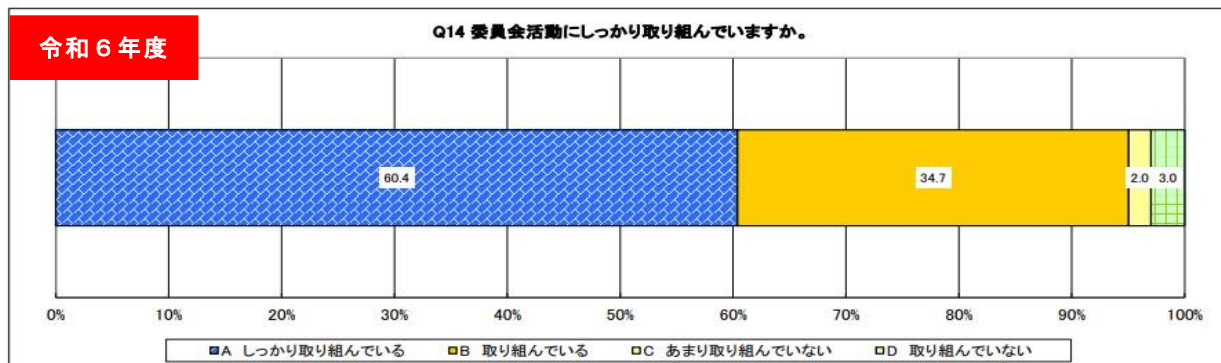
- ① 良好な結果が示されている現状があるので、引き続き学校運営協議会を中心にしながら、地域の方々と共に学ぶことができる、社会に開かれた学校を目指しながら学校運営を行う。
- ② 地域の講師の方とCSコーディネーターや教職員との連絡・調整をさらに密にする。学校教育目標や重点目標について共通理解を図り、効果的な学習支援のあり方を共有する。また、「子供主体」の授業実践に向けて、より目的意識を持った活動を行うことができるよう教職員の資質・能力の向上を図る。
- ③ 社会の状況や学校行事等を鑑みながら、保護者や教職員の負担をできるだけ軽減しつつ、参加しやすいPTA活動、効果的なCS活動を行うようにする。

VI 学校の特色について

(1) 達成状況について

VI 学校の特色に関して	令和6年度				令和5年度			
	A	B	C	D	A	B	C	D
	とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない	とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない
質問内容	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%
VI-1 あなたは、児童が積極的に読書活動に取り組むよう指導を行っている。	37.5	62.5	0.0	0.0	60.7	35.7	3.6	0.0
VI-2 あなたは、児童が進んで児童会活動に取り組むよう指導を行っている。	54.2	45.8	0.0	0.0	59.3	40.7	0.0	0.0

学校の特色に関しても良好な結果が得られている。「みんなで助け合い希望のつぼみを大輪の花へ」のテーマのもと、児童会本部や委員会活動を中心により良い学校を目指して児童とともに活動してきている。小学生用アンケートの「委員会活動にしっかり取り組んでいますか」の設問では、95%の児童が肯定的な評価をしており、本校の委員会活動に対する児童の意欲の高さがうかがえる。読書活動について、A回答は昨年より減少しているが、「そう思わない」と回答した教職員はおらず、肯定的な回答は100%となっている。



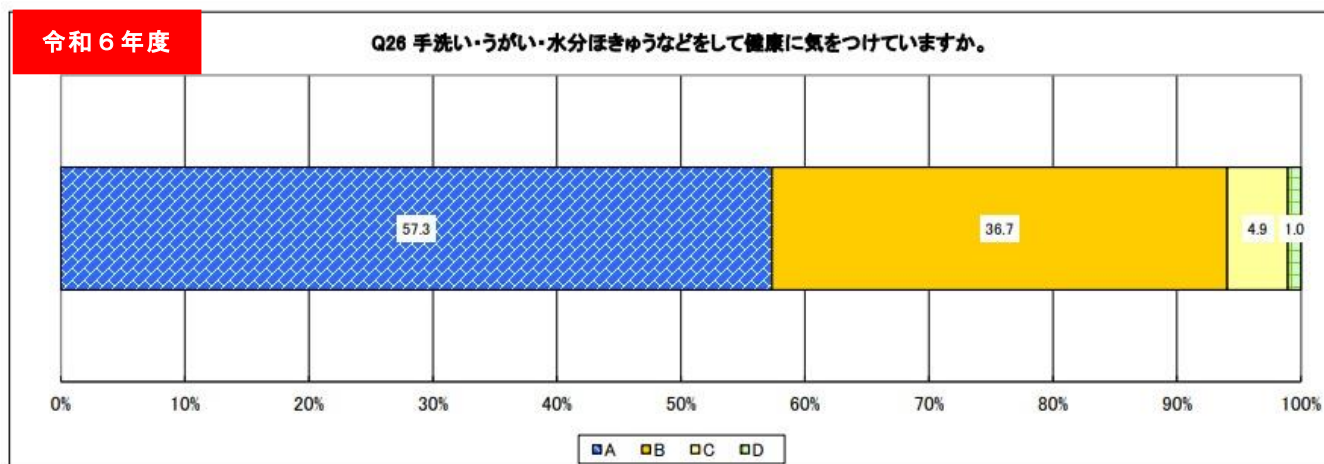
(2) 今後の取組について

- ① 学校の特色については、校長の指導の下、全教職員で共通認識をとりながら進めてきている。来年度以降も全教職員一丸となって取り組んでいく。
- ② 学校応援団や読み聞かせボランティアを活用して、引き続き読書教育を推進していく。

VII 創甲斐教育について

(1) 達成状況について

VII 創甲斐教育について	令和 5 年度				令和 4 年度			
	A	B	C	D	A	B	C	D
	とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない	とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない
質問内容	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%
VII-1 あなたは、児童の読解力や表現力を高める指導を行っている。	28.0	68.0	4.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0
VII-2 あなたは、児童同士の対話力を高める指導を行っている。	32.0	68.0	0.0	0.0	46.4	53.6	0.0	0.0
VII-3 あなたは、児童の体力向上や健康指導に努めている。	54.2	45.8	0.0	0.0	46.4	53.6	0.0	0.0



全ての項目について「A + B の肯定的評価」が 95%以上となっている。特にVII-3「体力向上や健康指導」については、A回答が昨年度を上回る結果となった。「手洗い・うがい・水分補給などをして健康に気をつけている」と肯定的に回答している児童の割合も 94%と高い。教職員が熱中症や感染症から児童を守る対策を確実に実行し、その方法が児童にも浸透していることが

分かる。一方、読解力・表現力を高める指導についてはA回答の割合が減少し、「ややそう思わない」という回答もあった。しかし、ここまで記述してきたことと同様に、指導の重点が昨年度までとは違っていることを踏まえて見る必要がある。

（２）今後の取組について

- 知・徳・体のバランスのとれた児童を育むために、今後も「創甲斐教育」を確実に推進していく。発達段階に合った適切な目標設定を行った上で、「確かな学力」と「生きる力」を育成する。ベテラン教師と若手教師の協働によるOJTを行いながら全教職員の資質・能力の向上を図り、どの学年の児童も自分の成長を実感できる教育活動を展開していきたい。

3 まとめ（成果と課題）

Ⅰ 学校教育目標・学校経営について	
成 果	課 題
○学校教育目標をもとにした学校・学年経営	
Ⅱ 学校運営について	
成 果	課 題
○特別支援体制の機能的な活用 ○個人情報の保護や管理 ○教職員同士の協働体制 ○働き方改革への意識	○危機管理マニュアルの理解 ○職務上の「報告，連絡，相談，確認」
Ⅲ 学習指導について	
成 果	課 題
○ＩＣＴを効果的に活用した授業づくり	○基礎基本の定着を図る授業づくり ○家庭学習に対する指導
Ⅳ 生徒指導について	
成 果	課 題
○民主的で規律ある集団づくり ○「学校には相談できる先生がいる」などの 保護者・児童からの信頼感	○いじめ・不登校等の早期発見・早期対応
Ⅴ 地域との連携について	
成 果	課 題
○コミュニティスクールの活用 ○地域と連携した児童の安全確保	○さらなる地域の教育力を生かす指導 ○現在の教育観や求められる児童像の共有
Ⅵ 学校の特色について	
成 果	課 題
○児童会活動への積極的な取組	
Ⅶ 創甲斐教育について	
成 果	課 題
○体力向上や健康指導	